

三重県の地震活動（令和7年2月）

令和7年3月12日
津地方気象台

【概況】

今期間、三重県内の震度観測点で震度1以上の地震は2回ありました。

- ① 京都府南部（6日18時16分、深さ8km、M2.8）を震源とする地震により、三重県で震度1を観測しました。
- ② 三重県北部（26日01時42分、深さ15km、M2.8）を震源とする地震により、三重県で震度1を観測しました。

※ 県内の詳しい震度は、2ページ以降に記載しています。

※ 最終ページに今月のトピックスを掲載しています。

地震の震央分布図と断面図（深さ0～500km、M0.5以上）

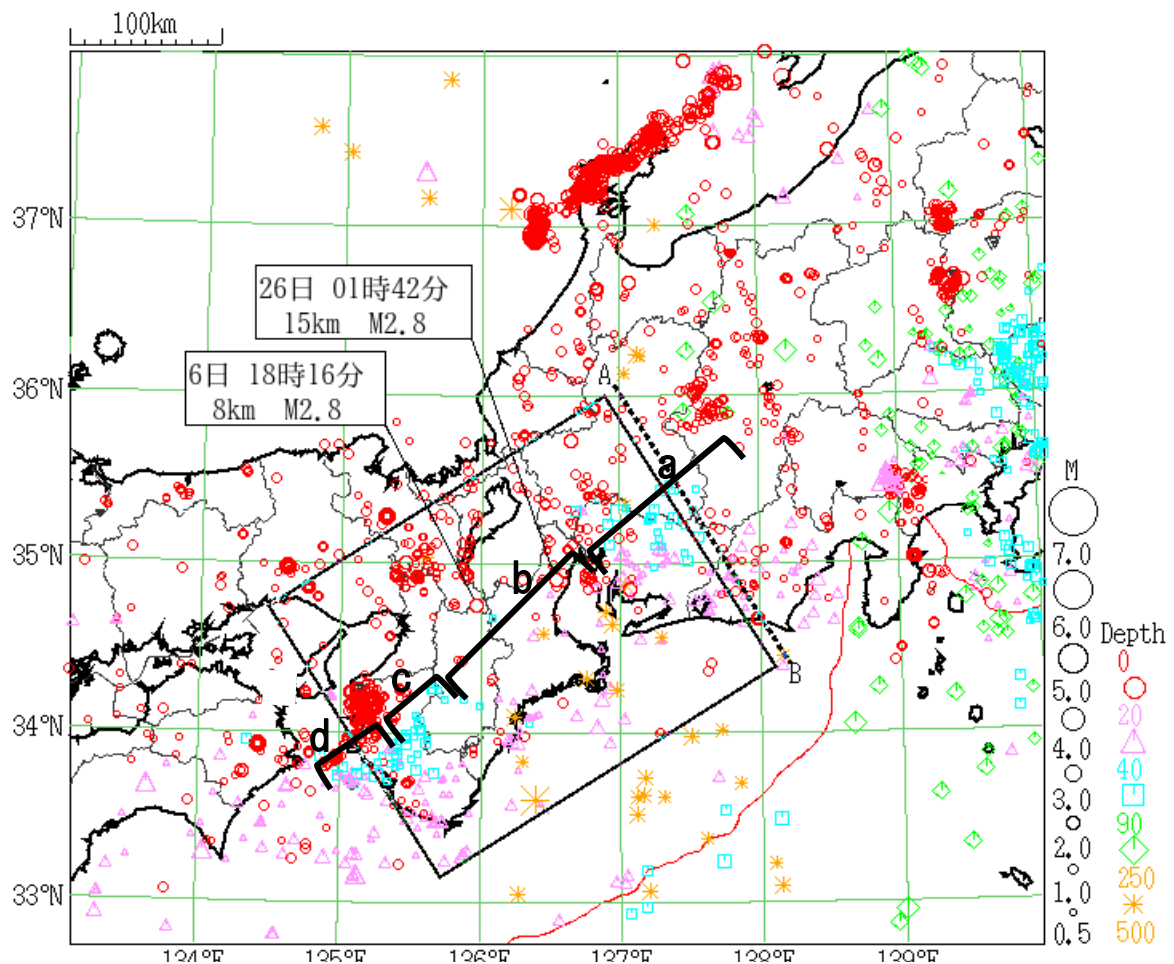


図1. 2月の主な地震活動

図中のa、b、c、dの黒枠で示す領域で、深部低周波地震を観測しました。

（詳しくは、後述の【深部低周波地震の観測状況】を参照下さい。）

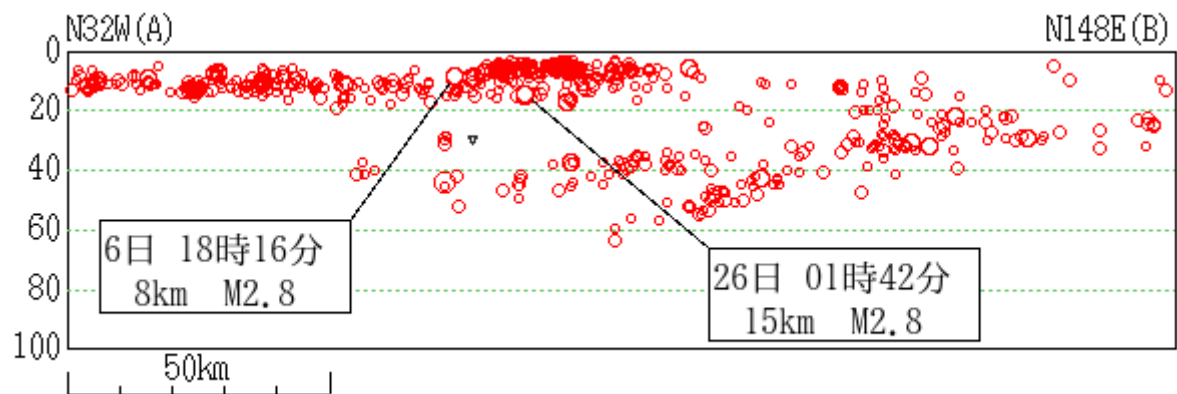


図2. 震央分布図の矩形内の断面図

図中の測線 (A-B) を鉛直スクリーンに投影してプロットしたもの

【県内で震度1以上を観測した地震】

- ① 京都府南部（6日18時16分、深さ8km、M2.8）を震源とする地震により、三重県内では震度1を伊賀市で観測しました。
- ② 三重県北部（26日01時42分、深さ15km、M2.8）を震源とする地震により、三重県内では震度1を四日市市、鈴鹿市、菰野町、及び亀山市で観測しました。

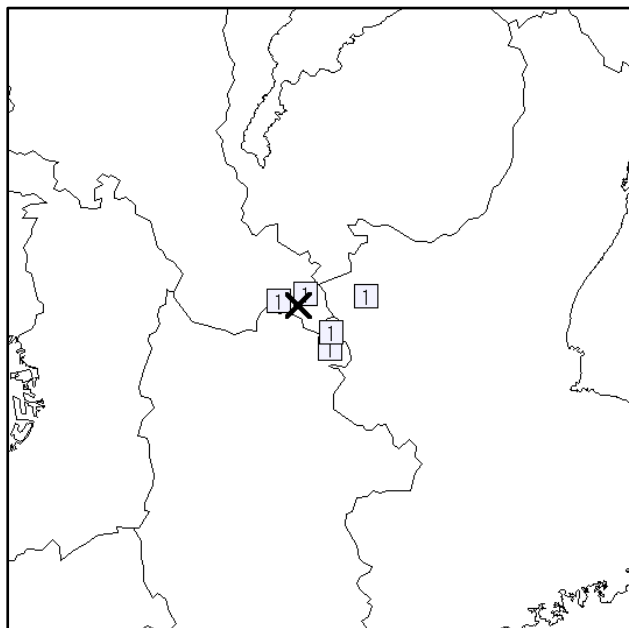


図3. ①の地震の観測点別震度分布図

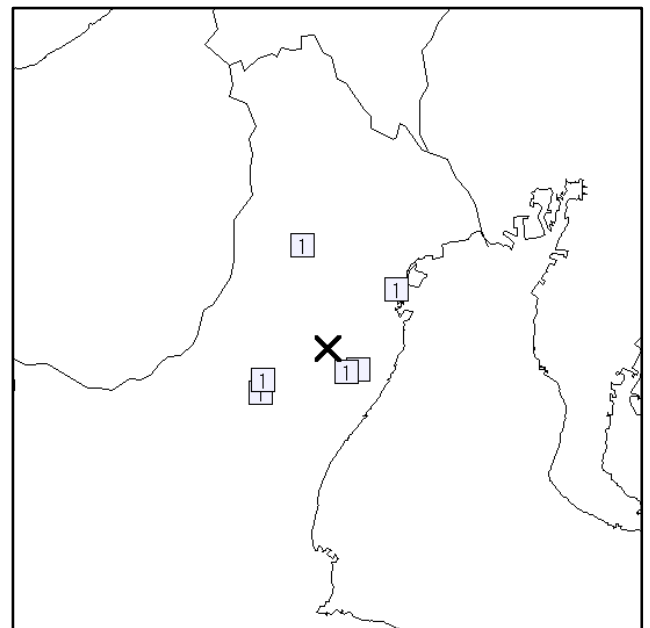


図4. ②の地震の観測点別震度分布図

【県内地震表（震度 1 以上）】（*印のついている地点は地方公共団体または防災科学技術研究所の観測点）

番号	震 源 時 日 時 分	震央地名	緯度	経度	深さ	規模	最大震度(全国)〔三重県〕	
		各地の震度（観測点）						
①	6 日 18 時 16 分	京都府南部	34 ° 45. 1' N	135 ° 58. 6' E	8km	M2. 8	(1)	[1]
		三重県						
		震度 1：伊賀市小田町＊						
②	26 日 01 時 42 分	三重県北部	34 ° 54. 2' N	136 ° 32. 5' E	15km	M2. 8	(1)	[1]
		三重県						
		震度 1：四日市市新浜町＊ 鈴鹿市西条 鈴鹿市神戸＊ 菰野町潤田＊ 亀山市椿世町 ＊ 亀山市本丸町＊						

【過去 1 年間に三重県内で震度 1 以上を観測した地震の月別回数表】

2024 年										2025 年	
3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
1	1	3	6	0	1	1	3	2	1	4	2

【深部低周波地震の観測状況】

領域b（紀伊半島北部）では3日～5日及び3月1日に、領域d（紀伊半島西部）では1～4日、13日、20日、及び27日に、領域a（東海）では1月25日～2月3日、10日、及び16日～17日に深部低周波地震を観測しました。なお、領域c（紀伊半島中部）では特段の活動はありませんでした。

※深部低周波地震はその地震波形の特徴から震源を精度良く求めることが難しく、震源が震央分布には表示されないことがあるため、実際はもっと数多く発生していると考えられます。

※図5～図7では、震源の精度がやや劣る地震についても表示しています。

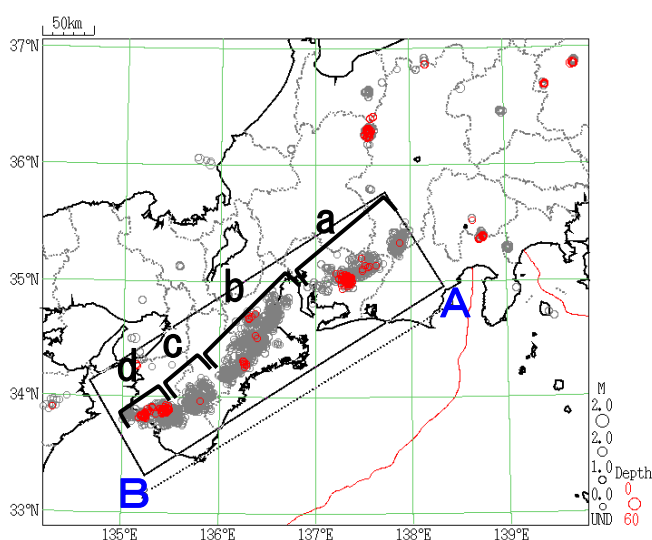


図5. 過去1年間の深部低周波地震の震央分布図
(2024年3月1日～2025年2月28日)
2025年2月に発生した地震を赤色で表示しています

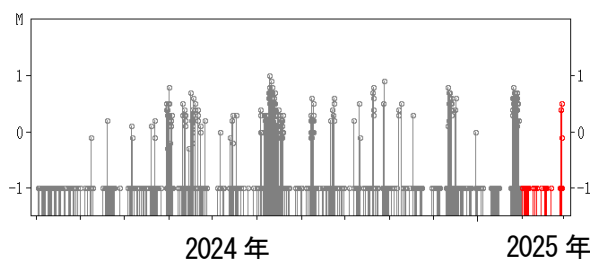


図6. 図5の矩形内のM-T図(地震活動経過図)
2025年2月に発生した地震を赤色で表示しています。
Mが-1以下やMが不明な地震は全て-1としています。

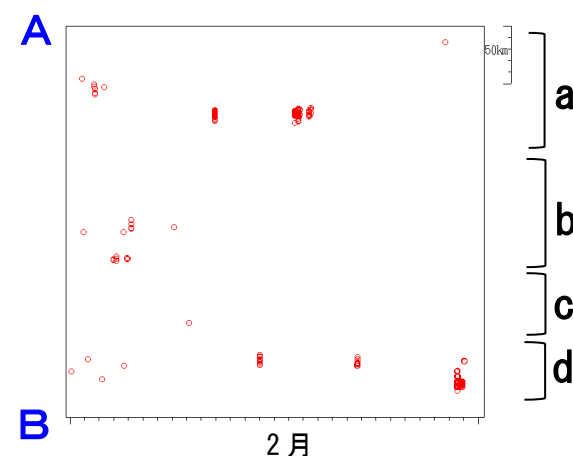
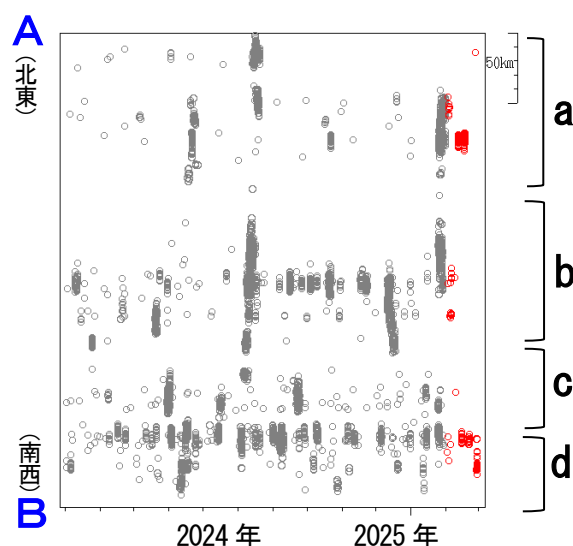


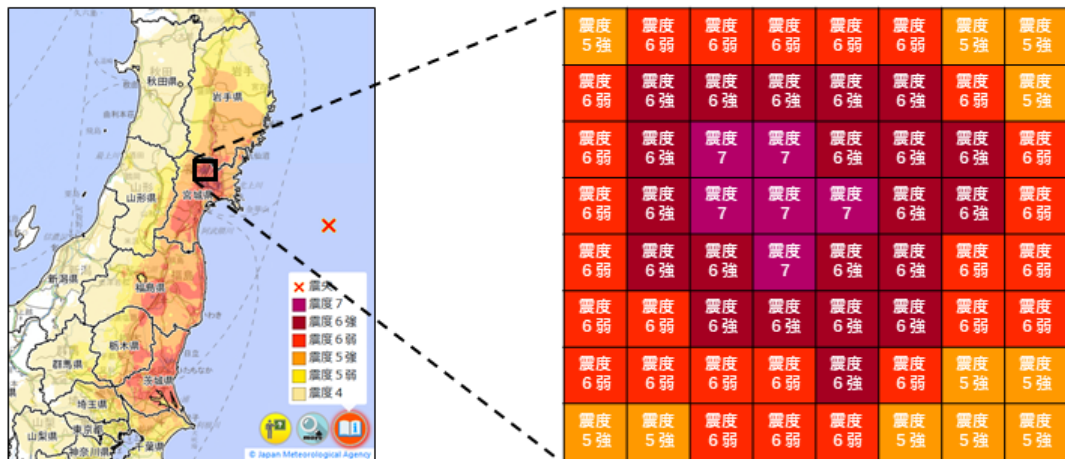
図7上) 過去1年間に発生した深部低周波地震の時空間分布図
縦軸：図9中のA-Bを投影（概ね北東-南西方向）
横軸：期間（2024年3月1日～2025年2月28日）
図7（下） 今期間部分（2025年2月1日～2月28日）



推計震度分布図について

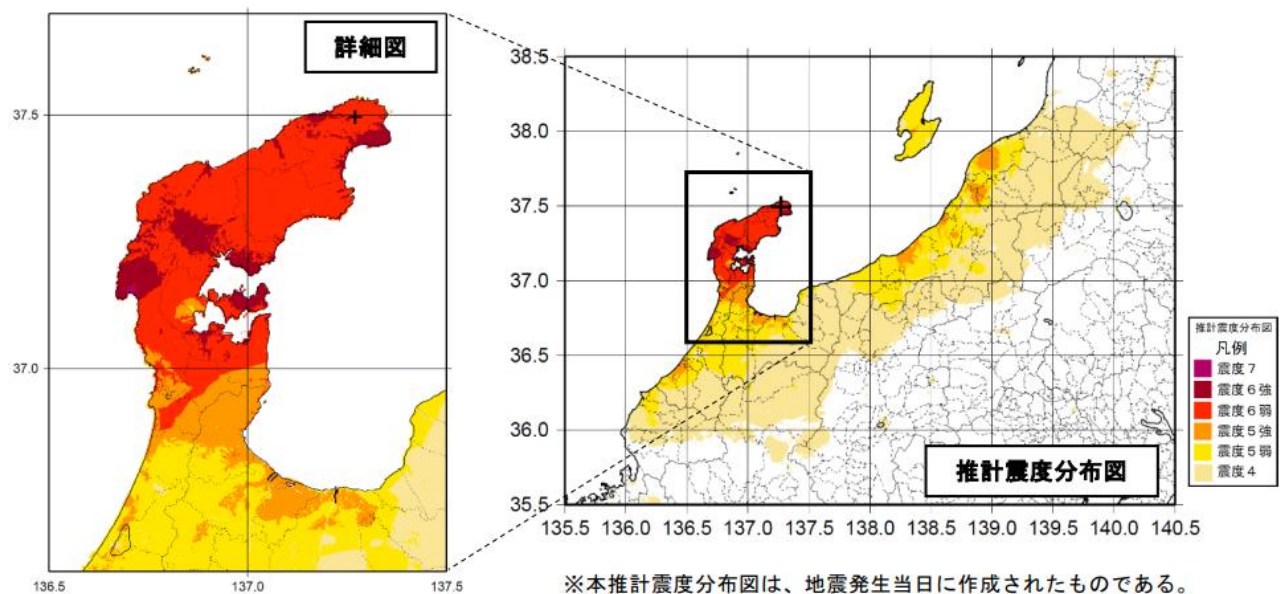
軟弱な地盤では揺れが大きく、固い地盤では揺れが小さいなど、地表で観測される震度は、地面表層の地盤増幅度の影響を大きく受けます。「推計震度分布図」は、実際に観測された震度等を基に、この地盤増幅度を使用して震度計のない場所の震度も推計して面的な分布図で震度を表現したものです。

メッシュごとに推計される震度のイメージ



推計震度分布図は、原則として最大震度 5 弱以上を観測した場合に発表し、推計震度 4 以上の範囲を示します。ただし、震度 5 弱以上を観測していても、強い揺れの範囲に十分な拡がりが見られない場合などは推計震度分布図を掲載しないことがあります。

（令和 5 年 1 月 31 日以前は 1km 四方の格子（メッシュ）、翌 2 月 1 日以降は 250m メッシュで震度を推計します。）



2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分 石川県能登地方の地震（M7.6、深さ 16km、最大震度 7）の推計震度分布図（+印は震央を表す）

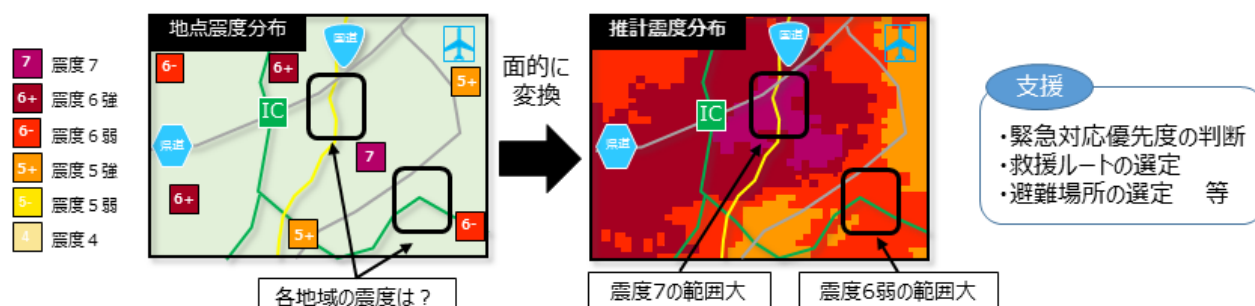
推計震度分布図は、地図データとして活用可能な形式で、メッシュごとに推計した震度情報を提供します。このため、地図に重ね合わせて利用することで様々な活用いただけます。気象庁ホームページでは、地図データと重ね合わせて掲載しますので（推計震度分布図（防災情報））、揺れが強かった地域を一目で確認したり、震度計がない地域の震度を速やかに把握することが可能です。

利活用事例の一つとして、地震発生直後の、応急対応すべき優先箇所の判別に活用可能です。迅速かつ適切な救難ルートを選定や避難場所の選定等に活用いただけます。また、メッシュデータを用いることで、ある地域の建物の被害を推計することや、企業活動において、被災地域に立地する拠点・事業所のBCP対応の判断材料として活用いただくこともできます。

ある震度が推計された地域において、どのような現象や被害が発生すると想定されるかについては、気象庁震度階級関連解説表（※ページ下部のリンク）をご参照ください。

推計震度分布図の利活用イメージ

応急対応すべき優先箇所の判別などの際に役立つ情報として活用いただけます。



推計震度分布図で示す個々のメッシュの震度は、各メッシュの矩形内が同一震度であることを示すものではなく、またメッシュの境界線が震度の境界でもありません。したがって、分布図を必要以上に拡大してメッシュの境界線を強調してもあまり意味がありません。図を活用する場合、大きな震度の面的な拡がり具合やその形状に着目していただくことが重要です。また、推計された震度の値は、場合によっては1階級程度異なることがあります。

<参考>

- ・推計震度分布図について（気象庁ホームページ；知識・解説）

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/suikai/kaisetsu.html>

- ・気象庁震度階級関連解説表

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>